ひとはく通信

ハーモニー

131

Nov. 2025



コレクショナリウムの鳥たち:伊丹市博の寄贈標本 コラム

皆さんはコレクショナリウムの鳥類標本をご覧になったことはあるでしょうか?これらの標本のほ とんどは、2022年3月に閉館となった伊丹市立博物館から寄贈を受けた、坂根 干(さかね もとむ)氏のコ レクションです。当館が譲り受けた坂根コレクションは1500点ほどで、そのうちの約7割が日本産、また 日本産標本の約半分が兵庫県由来の鳥です。いつどこで採集されたかという、研究上重要な情報もしっ かりと残っています。このような貴重な標本を長期保管し、研究や教育に活用することもひとはくの重 要な使命です。コレクショナリウムでは、兵庫でも見られる日本の鳥類を幅広く展示しています(図1)。

標本は、外で観察するだけでは分からない、生き物の意外な姿や新たな一面を私たちに教えてくれます。 例えば、ウグイスのホーホケキョというさえずりを聞いたことはあっても姿を見たことはない、という方 は多いのではないでしょうか?ウグイスはメジロと混同されることが多いですが、本物の「うぐいす色」 はメジロの鮮やかな黄緑色とは少し違うので、ぜひコレクショナリウムで観察してみてください(図2)。 ウグイスをはじめ、兵庫の多様な野鳥について標本を通して学んでもらえると嬉しいです。

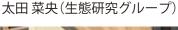




図 1 コレクショナリウムの鳥類標本展示スペース



図 2 ウグイスとメジロはどれでしょう?

トピックス

液浸標本とは?

本館の1階にある液浸収蔵庫には(図3)、その名の通り「液 浸標本(液に浸かった標本)」が収蔵されています。この液 浸標本、どのような生物がなるのでしょうか? 基本的には、 水棲生物が液浸標本になります(図4)。水棲生物は、水中に 住んでいるだけあって、乾燥に弱いものがほとんどです。例 えば魚であれば、乾燥すると干物のようになり、形が崩れたり、



図 4 ギンブナの標本

鱗が捲れ上がったりして、標 本としての価値が損なわれて しまいます。このため、液浸 標本にします。しかし、採集 図3 液浸収蔵庫の棚



した生物を、生息していた水にそのまま入れていたら、腐ってしまいます。 このため、生物をホルマリンなどで固定し、腐りにくく、また固く形が 崩れにくい状態にします。さらにホルマリンは有害なため、固定後に流 水で抜き、エタノールに置換するなどの処理をして、利用し易くします。 このような液浸標本は、数百年間は利用できます。本館には、そのよう に制作した液浸標本がたくさん収蔵されています。また、一般からの寄 贈も受け付けており、皆様の協力によって、コレクションの充実を図っ ています。 高橋 鉄美(生態研究グループ)